

Veni Vidi Vasi

来た、みた、
そして
前へ進んだ

CONTENTS

慶進生のみた「世界」

- 2 コラム「慶進生のみた世界」
- 3 「決意」が導く新たな世界 La Classe de Keishin
- 4 **1st Stage** 新しい世界が慶進生を変える
- 6 **2nd Stage** 特集
ディベート大会からみえた慶進中学校の携帯事情
- 8 **3rd Stage** 6期生がみた慶進の世界
- 10 同窓生
- 12 La Photo de Keishin
大学合格速報 お知らせ
小さな本箱

vol. **4**
2015

慶進生のみた「世界」 揺さぶられた心が、慶進の心性となり さらなる「慶進の世界」[Le Monde de KS]を創る

いつの時代にも名作家と呼ばれる人々がいます。清少納言、夏目漱石、シエークスピアなど、枚挙に暇がありません。ヨーロッパの「古文」とも言うべきラテン語にも名作家と呼ばれる人々がいました。共和政ローマのキケローとカエサルが、その双璧です。しかし、両者の文体は全く異なります。キケローはとにかく修辭学的な趣向を凝らし、難解です。岩波書店から発刊された『キケロー選集』をみた友人が、これで原文を読まなくてすむと安堵の表情を浮かべていたのを覚えていません。対して、カエサルの文体は明瞭簡潔です。「賽は投げられた」など多くの名言を残しています。

本号のタイトルは、カエサルの名言のひとつ「Veni, vidi, vici」(来た、見た、勝った)からとりました。慶進生の表情を見た時、この言葉が頭をよぎったからです。それは、昨年十二月のことでした。10期生は修学旅行で東京を訪れました。東京大学で東大生の話を聞く時、東京証券取引所で頭の上を回る数字を見た時、スカイツリーから関東一円を眺めた時、他にも行く先々で、10期生は目を輝かせていました。だから、この言葉を本号のタイトルとして借りることにしたのです。「Clemens」(寛容)をモットーとしたカエサルなら、気前よく貸してくれることでしょう。

しかし、「Veni(勝った)」はおかしいと考えました。その時の彼らの表情は「勝った」とは表現できないからで

す。では、何と表現すればよいのでしょうか。その答えは、宇部に帰ってからの彼らの行動から見つかりました。修学旅行後、10期生は学校生活の様々な側面で成長した姿を見せてくれました。生徒会長・副会長の立会演説会における候補者と推薦人の演説が、その一例でしょう。その様子をみていると、勝ったのではなく、かれらは東京をみたことで成長し、一歩前へ進んだのだとわかりました。そこで、「前へ進む」という意味の *Veni* を当てることにしました。

その10期生の表情を、十六世紀にカラバゴス諸島を訪れたチャールズ・ダーウィンもしていたことでしょう。同じように自分の見た世界に感動し、進化論という新しい学説に辿り着きました。だが、ダーウィンのみたイグアナも、自分のみた世界に自分たちの体を順応させ、海で生きるもの、陸で生きるものに分かれました。

慶進生をイグアナと一緒にすると、慶進生が怒るかもしれません。しかし、表紙絵のイグアナの世界をみる力強い視線、それは慶進生と通ずるものがあります。慶進生も新しい世界をみて、心を震わせ、自分を進化させ、「慶進の世界」(Le Monde de Keishin)を創り出します。本号では、そんな慶進生がみた世界をお伝えします。

6年中高一貫教育 英知を尽くし、未来を切り拓く。

慶進では生涯にわたって役立つ学力を身につけるために、6年間を2・2・2の3つのステージで構成しています。勉強のおもしろさを知ることから始まり、生徒たちが主体的に学習に取り組み、学内外の様々な体験活動で、豊かな人間性と、ともに生きる力を育み、次世代のリーダーとなる人材を育てます。

1st Stage	2nd Stage	3rd Stage
基礎学力養成期	実力充実期	発展応用期
中学1年生 中学2年生	中学3年生 高校1年生	高校2年生 高校3年生

「決意」が導く新たな世界

平成二十七年二月四日、平成二十七年度慶進中学校生徒会役員選挙がおこなわれ、10期生中村龍一朗くん(中三)が生徒会長に選出されました。十年という節目の生徒会の会長に
至るまでに見えた「世界」を語ってもらいました。

生徒会長 10期生

中村龍一朗 (中三)



La Classe de Keishin 齊藤先生の理科

物理には $ma=F$ という式があります。これは、運動方程式と呼ばれ、 m は質量で、単位は kg 。 a は加速度で、単位は m/s^2 。 F は力で、単位は N です。

僕が思うこの式のすごいところは、一見するとただの力の定義式のように見えるのですが、それぞれの文字が表しているものに注目すると、物体の運動の様子を観測することで分かる加速度と、ばねの伸びなどから測ることができる力という、二つの独立した値にとっても単純な比例関係が成り立っているところです。

齊藤先生の授業では、このような式や法則を自分が教卓を押したり、チョークを転がしたりして、色々な実例を交えて教えてくださいます。

また、先生の授業中のトークも面白く、特にクラスのムードメーカーとのやり取りは、僕やみんなの心を和ませてくれます。

9期生 吉岡 優志 (高一)

カー部に移ることを決意しま

した。

しかし、そんな僕が今や平成二十七年度の生徒会長。人生何があるか分からないものだと思いました。また、それと同時に、人生とはたくさん決意が積み重なってでき上がっていくのだということに気づきました。

というのも、僕が生徒会長になる過程の中で、三つの決意があったからです。

最初の決意は、入学してから二学期頃まで所属していた卓球部からサッカー部へ転部することを決めたことです。小学生的頃サッカー部に所属していたこともあり、卓球部で部活動をしていくうちに、だんだん何かが違うと感じるようになり始め、チームで何かを成し遂げる喜びを求めてサッ

カー部に移ることを決意しま

した。

サッカー部ではサッカーはもちろんのこと、学校行事の準備や後片付けなどの手伝いをするこや元気のよいあいさつを積極的に行うように教えられました。はじめは多人数の前で話すことや、学校行事の手伝いすることに抵抗がありました。それが学校のため、自分のためと分かると、だんだん無くなっていきました。これは、自分がサッカー部に入ることを決意したからこそ経験することができたのだと思います。

二つ目の決意は、生徒会副会長への立候補です。立候補することになった経緯は、ある日、田中先生が「誰かサッカー部

の中で生徒会副会長をやつて

くれないか」と訪ねてこられま

した。しかし、誰もやりたいと言いつ人はおらず、結局、僕が生徒会副会長に立候補することになってしまったのです。ですが、嫌ではありませんでした。むしろ目標ができてうれしかったのです。こうして僕は生徒会に入ることを決意しました。

最後の決意は生徒会長に立候補したことです。生徒会執行部へ入って、一年が経ち、また生徒会選挙の時期がやってきました。今年には僕たちの学年から生徒会長と生徒会副会長を一人ずつ選ばなければなりません。もちろん僕は生徒会長に立候補するつもりでしたが、選挙が近づくとつれて、だんだん自信がなくなつて

しまい、事前アンケートで、生徒会副会長と書いてしまいま

した。帰宅後、親にそのことを

話すと反対されました。しかし僕は「これでいいんだ」と自分に言い聞かせ、その日は寝てしまいました。翌日、河村先生と選挙について話していると、ふいに河村先生が「生徒会長をやってみないかと僕に言いました。その時は僕は気づきませんでした。自分は学校の代表という立場から逃げているだけだ」と。それから急いでアンケートを書き直し、生徒会長に立候補しました。結果は見事当選。

とでもうれしかったのと同時に、あの時、僕を引きとめてくれた親と、河村先生への感謝の気持ちでいっぱいです。

僕は生徒会を通して色々な

ことを学びましたが、その中

でも一番よかったことがありま

す。それは「やるようになったら意地でもやる。中途半端な方向に逃げない」ということです。最後に、僕がたたくさんのことにチャレンジし、色々な経験ができるのは、たたくさんの方々の協力があったからです。だから僕はたたくさんの方々に感謝しています。

1st Stage

新しい世界が慶進生を変える

宿泊研修

慶進中学校一年生は、四月に国立山口徳地青少年自然の家で二泊三日の宿泊研修を実施します。様々な小学校から集った一年生が、徳地アドベンチャー教育プログラム(TAP)やオリエンテーリングをおこなうことで、慶進生としての意識と、仲間との絆を育みます。



11期生
宮下千代乃(中2)

私たちは去年の四月、徳地の宿泊研修に行ってきた。今、あの時のことを思い出すと、あれからもう一年が経つのかと、改めて感じます。この一年間は長いようでも短かったと思います。

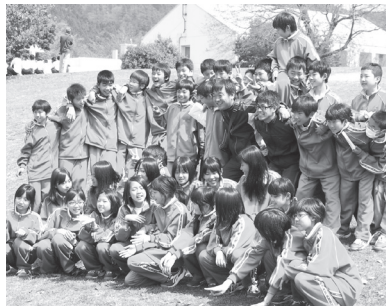
宿泊研修へは、この学校に入学して間もない時に行き、たくさんのお話を仲間と協力し合いながら友好関係を築いていく行事でした。同時に協力することの大切さ、人のことを思いやる優しさを学びました。

私は、小学六年生の時の宿泊学習も徳地と同じようなことを体験しましたが、小学生の時と中学生になって新しい友達と行った宿泊研修とは見方や考え方がずいぶん変わりました。

最初は、あまり言葉を交わしたり関わったりしたことのない人達とうまく班行動をしてくれるか、友達ができるか、とても不安でした。しかし、TAPというみんなと協力してさまざまなミッションをクリアしていく遊びや、オリエンテーリングをする中で、最後にはみんなと自然と打ち解けて話ができるまでになりました。もちろん、班だけではなく、他にもたくさんの人と仲良くして友達ができました。

十一ヶ月前の私は人に気を遣うことがあり、緊張していました。しかし、この行事がなかったら、人への思いやりの心をこまめに学ばなかつたと思うし、人と協力していく中で友達を二からつくるといふ貴重な体験もできなかったと思います。今ではとてもよい思い出となっています。

この宿泊研修で学んだことをこれからの学校生活や学校外でも活かしていきます。



慶進中学生となったファーストステージでは、慶進生としての人間力を育むための様々な行事が用意されています。その中でも、校外で出会う新しい世界は大きな刺激を与えるものとなります。

そこで、宿泊研修、校外地理・歴史学習、修学旅行で慶進生が見たものを教えてもらいました。



11期生
柴田 りく(中2)

私たちは、昨年の八月一日に校外地理歴史学習で門司港レトロに行きました。この行事は二学期に計画を立てて、夏休みに現地に行き、三学期に発表するという一年間で最もスケールの大きい行事です。

最初は、ほとんどしゃべったことのない人もいる班でやり遂げることができたか不安でした。しかし、話し合いや集まりを重ねていくうちに打ち解けて、意見を合えたり、賛成や反対を言い合えるようになりました。そして当日には、今まで調べたことを活かしてインタビュをしたり、建

物を見て回ったりするなどしました。

門司に行き、一番感じたことは、違った門司を見ることができたということです。今までも何度か訪れたことはありましたが、今回はみんなと協力して色々なことを調べ、考えた皆さんの思いを胸に訪れたので、門司を今までとは違った見方より知ることができました。

門司へ行ったこと、門司に行くまでに頑張ったことなども良い経験だったと思います。私たちはこれによつてやり遂げることの難しさ、チームワークの大切さなどたくさんのお話を学びました。こうした貴重な体験は、これからの生活や学習面でできつと役に立つ大切なことだと思います。門司で学んだことを活かしてこれからも頑張ります。

校外・地理歴史学習

中一の夏休みに門司港レトロ口地区を見学します。現地まで電車やバスやフェリーを使い、班ごとに移動します。事前の学習で自分たちのテーマを決め、現地でインタビュなどのフィールドワークを行い、三学期末に報告会を行います。調べ学習の方法やプレゼンテーションの力を身につけます。

修学旅行

中二の十二月に東京へ修学旅行に行きます。キャリア学習の一環として早稲田大学、東京大学を見学し、ディズニーアカデミーなどを体験します。自分の将来について考えるのはもちろんですが、仲間との絆を深め、中学校での大きな思い出の一つとなります。



原 千夏さん
1日目 早稲田大学

早稲田大学には、山口にないような大きな図書館があって驚きました。こういう場所で読書を思う存分してみたいです。



中島 秀幸くん
1日目 東京大学

東京大学にはみたことのない機械が多くあり、研究施設が整っていて、今まで描いていた大学のイメージとは全く違いました。



丹下 櫻子さん
1日目 劇団四季

「ライオンキング」は、内容はもちろん音楽や衣装も楽しめました。音が大きいので、劇場を出ると周りがとても静かに感じます。



斎藤 隆太くん
2日目 東京証券取引所

僕は東証という株を取り締まるところで、職員の方々の仕事に対する責任感や誇りを施設内の空気から感じることができました。



長谷川 瑛里さん
2日目 科学未来館

科学未来館で、ロボットのアシモが手話をしながら歌っていたのがとくに印象的で、科学についているんなことが学べる施設でした。



松脇 千咲さん
2日目 上野動物園

上野動物園では、短い時間内で「三大珍獣」の「パンダ・コビトカバ・オカピ」を見るために広い園内を走り回ったので迷子になりました。



山田 果奈さん
3日目 ディズニーシー

ディズニーシーに行く前に、ディズニーアカデミーを受講したことで、改めてディズニーの素晴らしさを知ることができました。



紀村 樹くん
3日目 ディズニーシー

ディズニーシーに初めて行きました。とても楽しかったし、班のみんなで過ごした時間は忘れられない思い出になりました。



道下 大生くん
4日目 浅草

浅草は下町なので、とても風情がありました。また、観光地なので観光客へのおもてなしの心を感じることができました。



鈴木 理香子さん
4日目 東京スカイツリー

人生初のスカイツリーに行きました。上からは全てがミニチュアに見えて、とても可愛らしかったです。



曽根 貴将くん
帰校後 慶進中学校

実行委員の人たちが良い計画を作ってくれたので楽しめた。

特集



ディベート大会からみえた 慶進中学校の携帯事情



▲左から田中優希さん(9期生)と井本葉月さん(9期生)

平成二十七年二月十四日、慶進中学校でディベート大会が実施されました。

今年の論題は「日本は、中学生以下の携帯電話の使用を禁止する、是か非か」というものです。慶進中学校の全学年が、国語の授業などを通して入念に準備し、本番に臨みました。ディベートを通してみえた「世界」を9期生の田中優希さん(高一)と井本葉月さん(高一)に語ってもらいました。また、論題が携帯電話ということで、図らずも慶進中学校の携帯事情もみえてきました。

今年で3回目のディベート大会ですがどんな印象をうけましたか？

田中 今回の議題が「中学生以下の携帯電話の使用を禁止すべきか」という身近なものでしたが、意外と考えたことがなかったのが難しかったです。今回のディベートではどのようなことを考えましたか？

田中 インターネットなどの影響力は大きく、私は、携帯電話を通過するだけの利用でもじゅうぶんだと考えました。インターネットの影響とはどのようなことですか？

田中 成績が下がったりとか、もめごとが起きたりしやすいことです。井本さんは3回目のディベート大会はどうでしたか？

井本 成長したなあと思いました。1年生のときは訳が分からず、ただ参加している感じでした。2年生になるとだいぶ筋が通るようになり、3年生ではきちんと議論がかみ合うようになりました。今回私は肯定側だったのですが、実際にスマホを使用して起きたストーカー被害などの事件を調べ、私たち肯定側の禁止すべきポイントとして、犯罪の抑制を主張しました。



ディベートの難しいところは？

井本 立論に対する質疑が難しかったです。否定側よりも肯定側の方がいいのではないかと、また否定側に、こういう部分はどうかと質問するのが難しかったです。

ディベートを経験して授業の聞き方、物の考え方など何か効果がありましたか？

田中 相手に伝えることはすごく難しく、言葉は大切だと思いました。

井本 肯定と否定では、考え方が違うと思いました。

2人ともこの春中学校卒業しましたが、中学校3年間はどういう世界でしたか？

井本 価値観の違ういろんなタイプの人が集まっている世界でした。価値観が違う人とたくさん出会って、もっと自分を出さないといけないと思いました。

田中 後輩として関わった行事と先輩として関わった行事とは全く違う世界でした。



私は3年生の時に中央委員会に所属し、行事の企画や運営をやっていたのですが、きちんと準備をしないと、後輩もついてきてくれないので、すごく大変でした。

春からは高校生になります。高校ではどんな世界が見たいですか？

田中 高校生でないとできないことがしたいです。

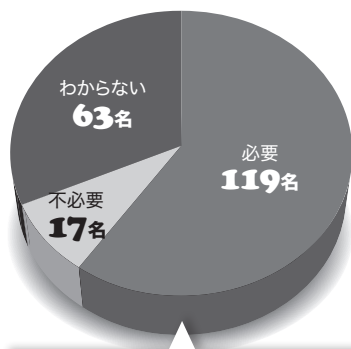
井本 積極的に行事などに参加して、もっと広い世界を見たいです。

最後に、新入生に中学校でぜひ経験して欲しいことなどメッセージをおねがいます

井本 いろんな価値観やさまざまなタイプの友達と関わって欲しいです。

田中 実行委員などに積極的に参加して欲しいと思います。確かに大変なこともありませんが、先輩後輩との仲がよくなり、二つの行事を終えたときの達成感は格別です。

Q 中学生に携帯電話は必要と
考えますか？



必要

- 連絡を取るのに必要(親・友人・緊急時など)だから
- 便利だから

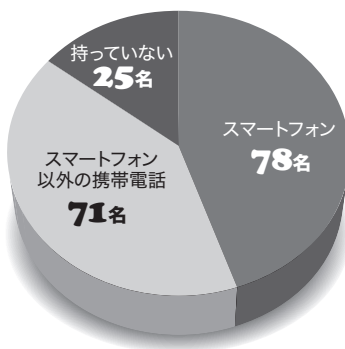
不必要

- 必ず必要とは思わないから
- 成績が下がるから
- 電話(実家・公衆電話)を使えばいいから

わからない

- 連絡には必要だが、その他には必要ないと思うから
- ディベートを通してメリット、デメリットがあったから
- 便利だが、犯罪など危険性も高まるから

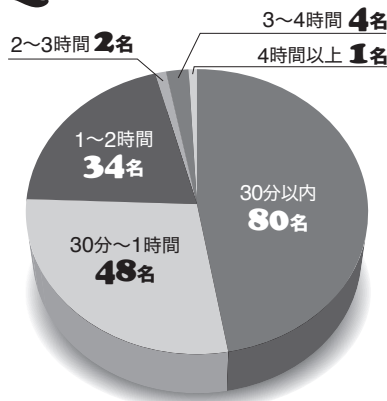
Q 携帯電話を持っていますか？



Q 携帯電話の利用方法Best10

1位	親や友人との通話	154名
2位	メール	139名
3位	時計	117名

Q 携帯電話の1日の平均利用時間は？



- 4位 カメラ
- 5位 ゲーム
- 6位 音楽鑑賞
- 7位 電卓
- 8位 動画鑑賞
- 9位 LINE
- 10位 webサイト閲覧

慶進中学校の携帯電話について

慶進中学校では、携帯電話の利便性は認めつつも、携帯電話の持ち込みを禁止しています。しかし、遠距離から通学する慶進生も多いため、保護者の同意の上、許可制で携帯電話の持ち込みを認めています。アンケート結果をみると、連絡手段としての利便性から、多くの慶進生が携帯電話を所有していることがわかります。もちろん、連絡手段としてだけではなく、ゲームやweb閲覧などの利用がみられます。そこには、成績の低下だけでなく、様々な危険があります。多くの慶進生が、ディベート学習や先日実施した生徒対象の講演会を通して、その危険性を学んだようです。慶進中学校では、現代における携帯電話のあり方をみつめ、保護者対象とした講演を実施するなど、慶進生・保護者・先生が理解を深め、安全な取り扱いができるよう、日々取り組んでいます。

ディベートII知の総合格闘技

我々は人生の中で、常に選択を迫られます。どの大学に進学するか、どちらの会社に就職するかといった少なからず人生を左右する選択から、定期テストの選択問題で、AとEのどちらを選ぶのかに至るまで。

ディベートは、何かを選択する際「なんとなく」「好みで」選ぶのではなく、「情報を収集し」「メリット/デメリットを比較して」「選ぶ能力を磨く競技です。

今回の論題は「日本は、中学生以下の携帯電話の使用を禁止する、是か非か」でした。

ディベートの最も重要な点は、自分の意見に関係なく肯定・否定両方の立場で主張しなければならぬことです。ちょうど今携帯電話に夢中な中学生も「日本は中学生以下の携帯電話の使用を禁止することに賛成だ」と主張しなければならず、そう述べるからには携帯を禁止したときに生じるメリットについて調べ、考察し、根拠を添えて論じなければなりません。逆に、携帯なんて必要ないもん！と思っている人も、「日本は中学生以下の携帯電話の使用禁止に反対だ。なぜなら、小中学生が携帯電話をもっていることでこんなにいいことがあるのだから」と主張しなければならぬのです。つまり、一つの事柄に対して「相対的な視点」を要求されるのです。

両方の主張に根拠を持たせるために、携帯電話を所持して良かったという事例、悪かったという事例を、教科書・インターネット・論文などにあたって情報を収集し、考察していきます。それを説得力ある文章にまとめ、自らの意見を他者(ジャッジ)に口頭で伝える表現力も必要です。また、相手の意見を聴きながらメモをとり、理解して相手のロジックの弱いところを見出し、そこに反駁していくという能力も要求されます。

ディベートは【相対的視点】【社会的知識】【情報収集能力】【文章構成力】【表現力】【理解力】【論理的思考力】といった能力が求められる、まさに「知の総合格闘技」なのです。

生徒は、今回のディベートを通して、携帯、あるいはインターネットの「便利で楽しい良い側面」と「危険な悪い側面」を少なからず理解できたと思います。また、異学年交流戦で先輩と対戦し、その知識・アイデア、話し方など、多くを学んだのではないのでしょうか。

慶進生には、机上の学問をヘースとした実生活で生きる「知」を修め、学問と社会をつなげてほしいと願うばかりです。

国語科 古川 義郎



6期生がみた慶進の世界

今春、6期生が慶進から外の世界へ新たな一歩を踏み出しました。6期生が過ごした六年間は、新しい世界の連続だったことでしょう。新しい世界に出会うたびに、成長し、人生の歩みを大きく進めてきました。そして、また新しい慶進の世界が創られてきました。そこで、6期生がみてきた慶進の世界を語ってもらいました。

神戸大学 法学部

石田 彰俊

慶進生のみなさん、ご入学、ご進級おめでとうございます。これからの生活でみなさんは様々なことを経験されると思います。参考までに私の経験を……と言いたいところですが、おそらくたいした参考にならないと思うので、ここで一つだけみなさんにお伝えしたいことは、「先生との出会いを大切にしてください」ということです。

みなさんが今いる慶進には、たくさん先生方がいらつしやいます。笑顔が素敵なお先生、クールな先生、お話が大好きな先生、ツンツンしているけれどそが可愛い先生。本当にユニークな先生ばかりです。そんな先生方は私たちより多くのことを経験されています。ぜひいろんな先生と話し、いろんな分野の話聞いて、自分の世界を広げていき、「新しい世界」を覗いてみてくださいます。

た意外な一面を知ることができると、なかなかお得です。

先生のみならず人との出会いは貴重です。必ずこれから歩む未知の世界への旅の糧になります。これからの学校生活、精一杯楽しんでください。みなさんのご活躍を陰ながらお祈りしています。

広島大学 生物生産学部

井上 雄紀

9期生のみなさん、まだ想像しきれないかもしれませんが、漠然と高校生になると厳しい学校生活が待っていると思っています。勉強は難しくなってきます。ですがその反面、行事の質が比べものにならないくらいに充実してきます。多々ある行事の中でも、慶進生が作り上げる慶進祭や体育祭は生徒会が主体となつて企画・運営をしています。

私は高校三年間その生徒会執行部に所属していました。高校の生徒会は中高一貫コース、アドバンスコース、グローバルコースそ

れぞれのコースから人が集まり成り立っています。三つのコースが集まることによつて本当の意味での慶進全体が見渡せるようになります。多少意見の食い違いなど大変なことはありますが、それでもそれを乗り越えることにより、より大きな達成感を感じ、さらに新しい目標も見えてきます。

私は生徒会役員として色々なことを経験してきましたが、生徒会が全てではありません。自身は今打ち込んでいることや、やってみたいこと、様々あると思います。それを思いっきりやってみてください。色々経験してください。そして、自分だけの新しい世界を感じてみてください。

大阪大学 医学部

榎 迪洋

慶進中学校に入学してからしばらくの間、学校での生活は戸惑うことばかりでした。慣れない制服や勝手の分からない校舎など何もかもが小学校の頃とは違って、別世界のようにも感じら

れました。

先生方もその中の一つです。小学校の頃は担任の先生がほとんどの教科を教えてくださいました。のに対し、中学や高校では各教科の担当が決まっていることに驚きました。

とりわけ印象に残っている先生は、中学時代に所属していたソフトテニス部の顧問の石原先生です。顧問の先生という、めつたに來ないものだという勝手なイメージを当時持っていました。が、その先生は忙しい中頻繁に部活に顔を出され、僕達の指導を熱心におこなってくださいました。顔の前でラケットを持つて、目をつぶらないようにボールするとう恐怖の練習をしたこともありました。が、今となつては良い思い出です。

他にも多くのものと慶進で出会いましたが、この学校で過ごした六年間の思い出を胸に、大学という新たな世界へ進んでいきたいと思ひます。

東京大学 理科II類

兼坂 雄太

慶進生のみなさん、毎日学校に行くのは楽しいですか？僕は六年間ずっと学校に行くのが楽しかったです。慶進にはそう思わせてくれる最高の仲間たちがいます。

慶進中学校に合格してから入

学するまでの間、僕の中で慶進はめちゃくちゃ勉強のできるエリート集団でした。しかし、みなさんも分かっているとは思いますが、いい意味で全くそんなことはありませんでした。慶進には常に高い志を持った人、底なしの知識を持つ人、部活動に生きている人、熱い人、すぐに空気を変えてしまふ人など小学校まででは出会わなかったようなタイプの人がたくさんいたのです。そして僕はそんな仲間たちと過ごすことで日々、知らなかつた自分・世界に出会えました。

違う価値観を持つ友人との会話の中で知る新しい自分、仲間と一つの目標に向かって努力していく過程で見つける新しい自分、人を好きになつてみてはじめて知る自分、いろいろです。そして、こうやつて様々なことを通じて知つた新しい自分・世界はすべて今の僕という人間を構成する重要な要素になつていきます。

さて、慶進生のみなさん、そしてこれから慶進での生活を始める新入生のみなさん、慶進には自分の知らない自分・世界を知る出会いがたくさんあります。その一つひとつを大事にして、自分の生きる上での糧にしていくください。

九州大学 工学部

重永 翔太郎

慶進で六年間を共に過ごして

きた友達と別れ、大学生として新しい生活を始めようとして今、感じることはありません。それは「人との対話が新しい世界との出会いを創りだす」ということです。

私が慶進で出会った友達、中学受験を乗り越えてきたからでしょうか、自分なりの考えを持っている人が多く、自分とは考えが合わないと感じる人ほど自分の見えない世界をみていました。当たり前前に聞こえるかもしれないが、実はそのような人と話す時こそ新しい発見があるのです。

私がみなさんに伝えたいのは、できるだけ多くの人と会話を交えながら、色々な発見をし、自分の世界を広げていってほしいということですね。みなと仲良くなれというわけではありません。ただ、考えが合わないから話をしないというのではなく、中学生である今だからこそ、みなさんには多くの人と出会い、対話し、そして得た広い世界から自らの目標を見つけ、これからの道を過ごしてほしいと思います。

東京外国語大学 国際社会学部

常 惠喬

12期生のみなさん、仲の良かった友達と離れて慶進に入学するのは、いろいろな不安もあると思います。でも、大丈夫です。慶進では、多くの友達、先生に出会え、様々な行事でいろいろなことを

学んで、今までにはない「新しい世界」を知ることができるでしょう。

六年前の私にとつて、慶進の英語スピーチコンテストは一番衝撃的な「新しい世界」でした。ですが、この出会いが私の人生を大きく変えて、二〇一五年の春、私は東京外国語大学に進学することになるのです。

初めて聞く先輩たちの美しい英語。正々堂々とした演説。私は深く感銘を受け、「英語をきれいに話せるようになりたい」と願うようになりました。それは英語というものに、恋をしたかのような感じでした。

そこから私も六年間を通して、英語の暗唱大会や弁論大会に挑戦してきました。しかし、その中で幾度となく挫折や失敗を経験したことで、素晴らしい教訓を得ることができました。「失敗は成功のもと」ということです。これは実によく聞く言葉ですが、本当の意味でこの言葉を体得している人は非常に少ないのではないのでしょうか。新たなことに挑戦しなければ、失敗はしません。しかし、失敗をしなければ成功はないのです。

私はこのことを真に実感してから、失敗に臆さなくなりました。大学受験という大きな挑戦においても、何度も挫折しうになりましたが、それを次への踏み石にして、また立ち上がってきたからこそ、合格を手に入れることが

できたのだと思います。

慶進にはいろいろなことに挑戦する機会が多くあります。ぜひその機会を逃さないで、有意義な六年間を過ごしてください。

東京大学 理科Ⅲ類

二木 寛之

私は中学に入り、すぐにソフトテニス部に入部しました。これは私がそれまで所属してきたどの集団よりも、先輩、後輩の関係が密接だったため、うまくやっていけるか大変不安でした。しかし、先輩方は卒業された今でも先輩と聞くとその人達を思い出すような素晴らしいメンバーが揃っており、私は中学一年生の間、大変充実した部活動を行うことができました。それだけに、自分が中学二年生に進級する際、それまで先輩でしかなかった自分たちが先輩になるのだと意識すると、「自分も先輩方のように後輩の良い手本にならなくては」というプレッシャーを感じていました。結果、中学二・三年にかけて厳しいばかりの先輩となつてしまいました。

私は中学の部活動を通し、縦の人間関係について学ぶことができたのではないかと思います。また、私は慶進高校に進学した後も高校のソフトテニス部に二年生の夏休み前まで所属していました。高校の部活は、アドバンスコース、グローバルコースの

生徒と合同で、学校の日常生活では他のコースの生徒と接する機会は多くないため、同級生といえども初対面の人達とほぼ部活でしか会わないことになり、それゆえに今度は横のつながりについて考えさせられることが多くありました。

このように私は部活動を通し、テニスだけでなく、人間関係も学びました。そしてそれはこれから私が社会に出て行くにあたり最も重要なものではないかと思えます。

国際教養大学 国際教養学部

宮本 歩実

私が慶進で出会った新しい世界、それは「英語スピーチ」です。始めてみようと思つたきっかけは、中二の春にニューカッスルの高校生が来校し、体育館で交流会が開かれたときのことです。元々洋画や音楽が好きだった私は、オーストラリア人の生徒とたくさん話をしたかったのですが、当時の私は話しかける勇氣も英語力も持つておらず、大変悔しい思いをしました。その悔しい思いが、第一回校内スピーチコンテストに参加するエンジンとなり、それからの私の慶進生活を一変させました。

ネイティブスピーカーであるパーキン先生と練習する最初の頃は、英語で自然に会話する先輩方の姿を見て、本当に私に

きるのだろうかと不安になりました。しかし、練習を重ねるうちに先生の話すことが理解できるようになり、スピーチコンテストで三位に入賞したことは、私に大きな勇氣と自信をあたえてくれました。「あんなに大勢の人の前でスピーチできたのだから、他のこともできるはずだ」と前向きな気持ちになり、のちの五年間の慶進生活は生徒会や英検、アメリカ留学など多くのことにチャレンジすることができた充実した時間となりました。新入生、在校生のみなさん、六年間は長いようでも、短いものを見つけてください。そして、それを続けてください。そうすればきっと「新たな自分」にも出会えるはずです。

▲上段左から重永くん、兼坂くん、櫻くん、二木くん、下段左から井上くん、常さん、宮本さん、石田くん



同窓生



数学科
増井健人先生

壹岐 大輔
山口大学 工学部

田中 翔
立教大学 社会学部

平成26年度卒業

6期生の慶進

今春、慶進中学校・高等学校を6期生が卒業しました。

6期生が私にとって初めての中高一貫コースであり、3年間担任として教科担当として関与することができた特別な学年です。この3年間、多くの驚き、発見、感動を彼らからもらいました。一人一人がとにかく何かに一生懸命でした。勉強はもちろん、部活、生徒会、行事(遊びも?)などその種類は様々です。個々で取り組む勉強では、継続して努力する力を持っており自己の目標(意志)をしっかりと持っています。また、行事などみんな協力するものはその団結力を発揮し、短時間でも高いクオリティをみんなが追求します。行事がある度にその完成度に感動し、「6期生はすごい!」と三人の担任が何度も言い合い、感心しました。

6期生とは?と聞かれ真っ先に思いつくことは、やはり「勉強に対する競争意識が高い」ことです。模試(授業中のテストも)に対する意識が非常に高く、各自が目標を持ち模試にすべてを懸けて望む姿は、試験監督をしながら鬼気迫る緊張感をひしひしと感じるほどでした。だからこそ彼らはその結果を大切に受け止め、次に生かすことができたのだと思います。

十年後、二十年後、彼らは何処で何をしているのでしょうか?想像するだけでワクワクします。

いろいろなことが無限に想像できます。この六年間で培ったことを土台にして自分の夢に向かって真っ直ぐ突き進んでほしいです。彼らはきっと夢を掴み、それぞれの舞台上で社会に貢献してくれることでしょう。

担任 増井 健人

石田くんと井上くんにも加わってもらい、お話しを聞きたいと思います。(※9頁に写真掲載)

みなさんは慶進の世界をすべて見てきましたが、新入生に慶進でどんな「慶進の世界」を見て欲しいですか？

田中 「たくさん新しい仲間と出会ったことにより「慶進の世界」を見て欲しいと思います。みんなそれぞれ違う目標や個性があり、僕自身が考え方など、大人になったと思いますし、いろんなことを俯瞰して見られるようになったことは素晴らしい仲間に出会えたからだと思います。

石田 「先生という「慶進の世界」を見て欲しいと思います。僕自身、先生との出会いから「新しい世界」が大きく広がりました。例えば授業で、授業内容からそれの場合でも、自分が疑問に思い、調べていくとまた違う見方ができたりして、新しい見方ができるようになりました。特に世界史の末富先生は、今起きている事柄などに繋がりが

のあることを話してくださいるので、ニュースを見ていても「これはあのことだな」とか、「昔こういうことがあったから今こうなっているんだ」と思うことがあります。

壹岐 「修学旅行」から「慶進の世界」を見て欲しいと思います。それまで僕はあまり海外に興味がなかったのですが、高校2年生のときに修学旅行で訪れたマレーシアの学校での交流で、いろいろな宗教や文化を学べて世界が広がりました。動物園のナイトサファリの規模やマレーシアの人たちの服装などから、世界には知らないことがたくさんあると感じました。

井上 「たくさんの人と関わること」から「慶進の世界」を見て欲しいと思います。慶進に入学して、僕の小学校の全校生徒の人数が慶進では一学年の人数であることに驚き、一気に人との関わりが増えました。また高校生になってからは、生徒会執行部に所属し、他のコースの人達と関わり、視野が広がりました。

みなさんはサッカー部に所属していましたが、中学校の部活はどういう世界でしたか？

石田 得意ではなかったスポーツが少しだけできるようになりました。

井上 部活があるから、勉強も頑張ろうという意気込みになり、良いストレスのかけ口になりました。

田中 いい仲間を得られたと思います。クラスの仲間とはまた違い、六年間同じクラスにならなかつた人とも部活を通して深い繋がりになりました。

部活には入部して欲しいですか？

田中 そうですね。辛いときに頑張れる忍耐力は受験にも必要なので、そういうのも部活では培えるのでぜひ入部して欲しいと思います。最後に、みなさんがこれから見る「未知の世界」に対してどんなことを期待していますか？

田中 社会学部に進学するので、世界で起こっているたくさんのお出来事を多角的に

研究し、自分自身が研究したいことを探していかなければいけません。今はまだ漠然と社会学を学ぶことしか考えていないので、大学でたくさん経験をしていく中で、自分の可能性や自分が本当に学びたいことを見つけていきたいです。

石田 世界中の人と関わっていく中で、否定的にならず、広く見て深く知るようになりたいです。

井上 高校で縛られてきた分、とにかく自由に過ごしたいです。(笑)

壹岐 慶進では知識だけではなく、人間関係も学びましたが、これから行く工学部でもたくさんの人と協力し合い、自分に足りないものを補ってもらいつつ、社会に役立つものを作りたいと思っています。

みんなに共通しているのは「新しい世界」＝人との出会いですね。

では、新入生にひと言お願いします。

全員 迷いつつも進んでください。



平成27年度 | **大 | 学 | 合 | 格 | 速 | 報 |****6期生の主な合格先** ※()内は人数。()がない場合は1名**東京大学**

理科III類(2)・理科II類

大阪大学

医学部

神戸大学

法学部

九州大学

経済学部・工学部(2)

国際教養大学

国際教養学部

東京外国語大学

国際社会学部

慶應義塾大学

医学部・理工学部(2)

国際基督教大学

教養学部

早稲田大学

文学部

上智大学

外国語学部

東京理科大学

薬学部・理工学部

お | 知 | ら | せ |

5月23日(土)	体験ツアー
6月27日(土)	体験ツアー
7月11日(土)	慶進中学校 学校説明会
8月8日(土)	サイエンス・クリニック

— 慶進でお会いするのを楽しみにしています —

La photo de Keishin

図書室 

放課後の慶進中学校・高等学校は、部活動や課外授業、生徒会活動などが行われ活気にあふれています。そんな学校の中でも、黙々と目の前のことに没頭する生徒がいる場所があります。

それは「図書室」です。

この場所で生徒が見ている世界は、数学の世界、文学の世界、哲学の世界と様々です。

この図書室からも社会への扉が開いています。

**第4回 小さな本箱**

英語科 村尾 美奈先生のおすすめ

アルジャーノンに花束を

ダニエル・キイス

チャーリー・ゴードンは知的障害を抱えながらニューヨークのパン屋で働く32歳の青年。同僚たちによるからかいを友情の証と捉えている。

そんなチャーリーが大学の教授たちから脳の手術を受け、数ヶ月のうちに彼らを凌駕する天才となる。しかし知能が高まっていくにつれ、友情の証だったはずの周囲の人間たちの言動が自分をあざけていた行為であること、そして愛されていると思っていた母親から拒絶されていたことに気付く。

その後、自分と同じ手術を受け天才となったネズミのアルジャーノンの知能が退化し始め、彼は自分の身に起こる未来を察知し、絶望する。

彼が手術を受けることを決めたのは、知的水準が上がればみんながもっと自分を好きになってくれると考えたからだ。しかし実際は知能が高まることにより、周囲の人間に対する不信感を募らせ、彼らに劣等感を感じさせるような発言を繰り返す、孤立していく。そして彼のことを本心に心配する人たちさえ拒絶す

るようになる。知能が高くなることで彼は幸せにはなれなかった。

チャーリーを含め作中の人物たちは、常に自分と相手の知能レベルが違うことを理由に拒絶し合う。自分と異なるものに対する彼らの恐怖心は、この作品を読んだ学生時代の私の内面をえぐってきた、自分の中の同じ感情と向き合わせた。異物への恐怖心のためにそれを排除し安心しようとして、差別や偏見が生まれることもある。他者を受け入れなかったことによる数知れない悲劇を過去も現在も私たちは認識しているはずなのに。

きれいごとかもしれないがバベルの塔の破壊がもたらしたものは、私たちを分断するものではなく、異なるものを受け入れて共感する心を養うチャンスであると信じていた。そして、慶進生には他者に共感する心を養いつつ、チャーリーを含む全ての人にとって住みやすい世界をつくらうという意識を持ちながら知力、学力をつけてほしい。